

## 日吉台地下壕保存の会

## 会 報

## 第1号

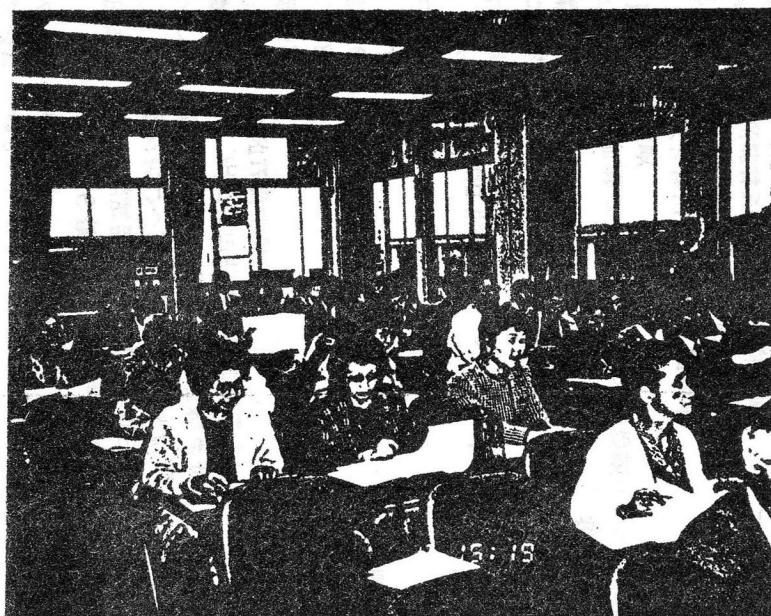
発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

〒223

横浜市港北区下田町3-15-27

TEL 044-62-1282 (寺田貞治方)



結成総会で熱心に耳を傾ける参加者達

## 目 次

○会長挨拶	1
○地下壕保存の会結成に 至るまでの経過報告	2
○運営委員・会計監査の 紹介	2
○第一回 幹事会報告	2
○「地下壕保存の会」に 参加して	2
○私の地下壕との出会い	3
○地下壕見学会	4
○地下壕ゼミナール	4
○地下壕保存と平和記念 資料館建設の動きにつ いて	4
○入会案内	4
○書籍紹介	4
○編集後記	4

△云々氏挨拶

永戸多喜雄

旧帝国海軍が第二次世界大戦の末期に、連合艦隊司令部その他中樞機関を収容するため、日吉台に掘鑿した長大な地下壕（大部分は慶應義塾の敷地内）を、二十世紀の史跡として保存しようという会が発足してから一ヵ月になります。慶應義塾の教職員有志、空襲下の日吉で生きた人々、旧海軍関係者、地域で子供たちの教育にたずさわる教師たち、きわめて穏和だが、平和への熱い想いを胸に秘めた周辺の市民が、一つの目的のために、この会を結成したこと自体、数年前に地下壕調査を思い立ち、細々と活動が続けてきた私たちにとっては、当初は夢にも考えなかった劃期的な出来事です。そして会の結成が劃期的であればあるほど、会に加わる私たちの責任は重いのだと言わなければなりません。

日吉台の土のなかに横たわるあの地下壕は、太平洋戦争の歴史的な証人です。これから私たちは、めいめいがそれぞれの立場から、地下壕の証言に耳を傾け、二十世紀の最後を生きる私たちに地下壕がつきつける問い掛けに答えながら、設立総会が採決した目的を實現させるために、たしかな足どりで歩き始めましょう。

# 地下壕保存の△云 結成に至るまで の経過報告

事務局長 寺田貞治

地下壕の調査をしていくうちに、地下壕のもつ歴史的な意味の重さを感じ、出来れば戦争と平和を考える原点として、この地下壕を永久に保存しなければという思いに至りました。昨年、市や区の職員の方々が十数名こられ、地下壕を史跡として何らかの形で残せないだろうかということ、地下壕を案内したのがきっかけで「地下壕保存の会」の結成に向けて動き出しました。地域や慶應義塾の人々に呼び掛け、多数の方々に発起人(五五名)や賛同者(二百四名)になって頂きました。

次に「地下壕の保存を進める集い」の案内を出したりピラを配ったりした後、さる四月八日に慶應義塾大学藤山記念館で集いを持ち、「日吉台地下壕保存の会」が正式に結成されました。

集いには会場いっぱいの人々(約六十名)が参加し、三時より五時半まで熱気あふれる話し合いがもたれ、会則や運営委員などが決まりました。

また、元連合艦隊司令部参謀や海軍省人事局課長・元司令官官付従兵の方や、地元の方々の話も

あって、集いは非常に盛り上がりを見せて、無事に終わりました。

集いの様子は、四月九日の毎日・産経新聞と十一日の神奈川新聞に詳しく掲載されています。反響も大きく、続々と入会者もあり、五月六日現在、会員数は一二八名に達しました。

## 運営委員会・△云計 監査の紹介

会長

永戸多喜雄 慶應大学名誉教授  
副会長

秋本謙三 連合町内会長  
田辺昇 下田町自治会長  
佐藤林平 慶應大学教員  
飯島重俊 慶應大学教員  
小淵昭夫 慶應大学教員

幹事

比留間淳一 塾講師  
皆川法治 消防士  
谷栄 わだつみ会常任理事

茂呂秀宏 日吉台中学教員  
細谷保治 農業  
増田直樹 慶應大学教員  
林栄美子 慶應大学教員  
梅沢滋隆 慶應大学職員

事務局長

寺田貞治

事務局員

大西章

林ちづ

中沢正子

佐々木秀信

加賀谷欣之助

会計監査

森山高行

天野喬子

慶應高校教員

慶應高校教員

慶應高校教員

慶應高校教員

慶應高校教員

慶應生協職員

公認会計士

主婦

## 第一回

### 幹事△云報告

事務局長より、経過報告があった後、幾つかの議題について討議した。

○活動の進め方について

①地下壕の見学会を年に何回か実施する。②その前に幹事が地下壕のことを詳しく知る機会をもつ。③調査班を組織して調査を至急始める。④地下壕関係者の話を聞く会を開く。

○当面の具体的活動計画について

①五月九日(火)日本TVが放映する地下壕のビデオをとる。②五月十八日に幹事会を開き、その後で地下壕に関するセミナーを

やる。③五月二一日(日)地下壕見学会を開く。

○会報の発行について

五月十日を目標に発行して郵送する。

○その他

①大学の課外活動で地下壕についてのセミナーを開き、学生にも知らせる。②ワシントンの公文書館に地下壕に関する資料があるかを調べる。③横浜地域研究費を申請するかを調べてみる。

## 「地下壕保存の△云」に参加して思う

横須賀良子

殺し合うということが当然のこととなってしまう戦争の惨さ、これだけは二度と繰り返してはならないのだという強い思いで若者たちに向かつて言い続けてうるさくれた時もあった。

ところが最近になって自分の意識から確実に戦争の生々しさがうすれていることに気が付いたのです。歴史は繰り返すということなのかもと自己を肯定しかけた時、地下壕保存のことを伺い「こ

れだ」という思いで設立総会に参加したのでした。

ここでまたその地下壕にかかわりの合った三人のお話で風化しかけた私の心を戦争当時へとよみがえらして頂いたのです。

はじめに参謀中島重親氏が慶應に地下壕設置が決まるまでの経過を述べられた後、やや間をおいてから重い口調で「ここに地下壕を作ったために日吉の街が空襲にあい多くの家が焼かれてしまいました。いまここで皆様に深くお詫び致します。」と深々と頭を下げられました。私はこの瞬間「四十三年間もこの思いをじっと胸に抱きかかえていたのだろうか」と驚きとその方の胸の痛さがジーンと伝わるような妙な思いでした。まだどこかで傷のうづきを持ち続けている人がいるのだということを知らされた。

海軍人事部の末国政雄氏からは壕の湿気のひどさとそのために書類や衣が濡ってしまい、天気の良い日をみつけては米軍に見つからぬように衣を干したりしながら事務処理の話を伺いました。

最後に司令長官の従兵の金子善一氏が自分はただ一つだけの入口を出たりは入ったりしただけで他の入口の壕のなかのことはまったく知らなかったということを知り、ある特定の人以外全体を知ら

されることなしに、部分的に与えられた任務をただひたすら遂行していたことを知り得たような気がしました。

どなたかの話であったかは忘れましたが、地下壕構築のセメントがなく田園調布の民家の塀を壊してきて代わりに当てたが、最後にはそれすらもなくあとは繁堀りのままであったとのこと。各家庭の鉄の鍋や釜などは勿論、指輪類まで供出といつて持もっていかれてしまったことは知っていたが、まさか壕構築のセメントまでも不足していたのかと敗戦間近の軍の現状をチラッとだけのぞけたような気がしました。

ただこのことは単に当時の事実だけということではなく現代の経済大国といわれる日本の繁栄が他国からの資源依存がなくては得ないことにまで思いをはせてゆが必要があるのではと思えました。

経済戦争という別の形の戦いがあるということも考えて、いかに他国と強調しながら平和を保ち続けるかまで考えてゆければという思いになりました。

最後に戦争を知らない若い世代の方が、自分の子の通う幼稚園がこの壕の近くの上にあることを知り驚いた。子供たちは何も知らずに壕の上で遊びまわっている。是

非この壕をこの子達の未来までも平和であるために保存してゆきたいと思うと力強くおっしゃった。こうした若者がいるかぎり日本の平和はまだまだ大丈夫と思えました。私も一緒に地下壕が戦争の事実として多くの人に目にふれ平和の尊さを感じることが出来る場所であるように記念館設立まで頑張らなくてはと大いに奮い立った一日でした。

最後に私の願いですが、今日みえられた方々は勿論の事ですが、ここにたずさわったより多くの人々のありのままの当時の事実を記録して、保存して頂ければ地下壕が生きた存在として受け継がれるのではと思いますが。(主婦)

## 私の地下壕

### との山△△い

茂呂秀宏

私が初めてこの地下壕に入ったのは昨年の秋のことでした。一年生の日本地理の授業で鶴見川の洪水の話をしたついでに学区の歴史について少ししゃべったのですが、それを聞いて「君がこの壕について存在を教えてくれた。そして部活動の間に、この壕を案内

してくれたのでした。一年前ぐらいに少しは小耳にはさんではいたのですが、少し大きい防空壕ぐらいにしか考えず、気にはしつっぽっておいただけですが、この時、実際に入り、まずその規模の大きさに驚くとともに一体誰が何の為にという疑問がまず頭をかすめました。職場の人に、学区の人に聞き、やっと少し手がかり「日吉台三十三十年史の中に写真が掲載されている」がみつかり始めた矢先、新聞で「平和への願いをこめて」(慶大生協)の中に壕についての論文のあることを知り、さっそく購入し永戸先生、寺田先生の文章を読ませて頂いたわけです。その後、日吉台中の職員の方々と私の属している小さな組合の方々と案内する立場で、再度、再々度と壕に入る機会をもったわけですが、その中で今改めてこの壕を「歴史の証人」として保存し、学区・地域の現代史の戦争の「証人」として残す必要性をますます感じていく次第です。

# 地下壕見学会

日時 五月二日(日)午前十時  
集合場所 日吉駅東口下車

慶應大学銀杏並木

探検時間 約一時間

探検地域 Aブロック約一キロ

服装 長靴・長ズボン・長袖の  
シャツまたは上着・軍手

持物 帽子またはヘルメット  
懐中電燈・地下壕の地図  
(事務局で用意)・カメ  
ラ(フラッシュを忘れず  
に)

## 注意

①農家の庭先から入るの  
で、迷惑にならないよう  
にすること。②みんなか  
ら離れないようにするこ  
と。③泥で滑り易く、排  
水管やマンホールがある  
ので気をつけること。④  
農家の人が水を利用して  
いるので、水を汚さない  
ようにすること。  
参加申込 参加希望者は、事務局  
まで、電話またはハガキ  
でご連絡下さい。

## ◎地下壕

ゼミナール

見学会に先立って、五月十八日  
(木)に、慶應大学日吉新研会議  
室で、幹事会の後、六時ごろより  
地下壕の詳しい話を聞くゼミナ  
ールをもちます。どなたでも参加で  
きますので奮ってご参加下さい。

## ◎地下壕の保存と

平和記念資料  
館建設の動き  
について

保存の会が発足したばかりで、  
まだ殆ど動きはありませんが、去  
る四月二十七日に港北区役所の区制  
推進課に行ってきました。区役所  
の職員の話によりますと、近いう  
ちに推進課の職員数名と建築・土  
木の専門家と保存の会の人達を交  
えた「懇話会」のようなものを年  
に何回かもって検討していきたい  
とのことであった。  
まだ懇話会での内容や保存の会  
で調査したことなど、一年間にま  
とめたものを出版するぐらいの費  
用は出せるだろうとのこと事  
であった。さらに事業を成功させる  
には、地元の積極的な声が必要で  
あるとのことであった。

私達は、この運動をますます拡  
げていく必要があります。会員の  
皆様には、会員の数を、もっと増  
やさなくてはなりませんので、お  
知りあいの方に、どんどん入会を  
進めるなどのご支援を今後ともお  
願いたします。(寺田記)

## 入会案内

入会するには

○申込書に必要事項を記入しま  
す。

申込書は事務局にあります。

○年会費は、個人千円(高校生  
以下五百円)、団体二千円

○郵便振込

(番号) 横浜二六二九九七  
(加入者名) 寺田貞治

入会したら

○会報が送付されます。会報で  
は保存運動の状況をはじめ、

地下壕の見学会、学習会、溝  
演会などの案内、調査、研究  
の情報などを紹介します。

詳しいことは

○事務局までご連絡下さい。

## 書籍紹介

「平和への願い  
をこめて」

慶應義塾生活協同組合が、戦争  
体験を語り継ぐために出版した小  
冊子(B5判、七六ページ、二百  
円)である。教官らの戦争体験の  
ほか、慶應義塾の日吉キャンパス  
の地下にあった旧海軍連合艦隊司  
令部や軍司令部、人事局その他の地  
下壕の調査報告を特集し、地下壕  
の全容が明らかにされている。

## 編集後記

◆とにかく、一号の会報を早く出  
さなければと、あたふたと編集し  
ました。素人ばかりで、全くしま  
らないレイアウトですが、とにかく  
出せてはっとしていきます。

◆いろいろな意見がありました  
ら、お寄せ下さい。また、会員の  
方々の原稿をお待ちしています。

◆五月九日午後七時から日本TV  
「追跡」で地下壕が放映される予  
定だったが、急に明電工疑惑に変  
更された。次回放映予定は、来週  
中とか。乞ふーご期待?

◆事務局員一同、がんばっていき  
たいと思っております。ご支援の  
程をお願い致します。

◆事務局 千二二三横浜市港北区  
下田町三一五一二七寺田貞治方

☎〇四四・六二・一二八二